

平成20年1月

村脇義之 学位論文審査要旨

主査	清水英治
副主査	池口正英
同	汐田剛史

主論文

Aberrant expression of selenoproteins in the progression of colorectal cancer

(大腸癌進展過程におけるセレノプロテインの発現異常)

(著者：村脇義之、土谷博之、神戸貴雅、原田賢一、八島一夫、野坂仁愛、谷田理、
河野通盛、向山智之、西向栄治、古城治彦、松浦達也、高橋和彦、尾崎充彦、
井藤久雄、淀井淳司、村脇義和、汐田剛史)

平成20年1月 Cancer Letters 第259巻 218頁～230頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はヒト大腸癌切除組織を用いて、大腸癌の進展過程における酸化ストレスの影響とセレン含有抗酸化蛋白であるセレノプロテインの役割について免疫組織染色およびウエスタンブロット法を用いて検討したものである。その結果、大腸癌組織では8-OHdG、4-HNE、MDA、4-HHEなどの酸化ストレスが亢進しており、GPx-1、GPx-3、SePPなどの抗酸化セレノプロテインの発現およびGSH量が低下していることが明らかにされた。酸化ストレスと大腸癌病期との関連は認められなかったが、セレノプロテインの発現低下は病期の進行と密接に関連していた。本研究はセレン含有抗酸化蛋白の減少が大腸癌の進展に関与していることを明らかにしたものであり、大腸癌の病因、病態の面で、明らかに学術水準を高めたものと認める。